

## 平成20年度小林市共同実施報告書

小林市立小林小学校  
校長 池田辰男

連携校名（市内全小中学校）

### 1 成果

平成20年度は、子どもたちの豊かな学びをサポートするために、教員が子どもと向き合う時間を確保することや学校の創意を活かした教育活動を推進する観点から、学校情報総合管理システムの構築に向けて、以下のSSCシステムを開発・運用してきた。

#### <市内全小中学校で運用しているシステム>

##### 1 校務情報共有システム

地域イントラネット上で、学校運営や校務処理に必要な情報を提供するシステムで、日課、掲示板、伝言板などの機能とともに文書共有システムとリンクして、諸会議情報や報告期限情報を閲覧できる。

このシステムを運用することで、校務情報の共有化と校務処理の効率化を図ることができた。

次年度に向けては、学校の行事等のデータを月行事、週案、日課及び学校日誌等へ横断的に取り込むとともに、各行事の実施計画を閲覧できるシステムの構築を図る。

##### 2 文書情報共有システム

地域イントラネット上で、文書の配信、受信、保存を一体的に処理するシステムで、教育委員会が配信した文書は各学校の受信簿（市教委サーバー）に登録されると同時に保存される。

このシステムを運用することで、ペーパーレス化と大幅な経費節減を図ることができた。

さらに、教育委員会事務局の事務負担軽減と教頭や教務主任及び事務職員等の文書事務を年間約200時間削減することができた。

次年度に向けては、ソフト会社と連携してシステムの再開発及びメンテナンス、他市町村への普及を促進する。

##### 3 視聴覚教材情報共有システム

市内の小中学校が所有するビデオ等の視聴覚教材のライブラリー（現在ビデオ教材約600本を登録）で、地域イントラネット上で、どの学校からでも検索（教科、タイトル等）・閲覧ができる。

また、各ビデオ教材等について、内容の要約や時間、保管場所などが記述されている。

このシステムを運用することで、各学校の視聴覚教材の有効活用及び予算執行の効率化を促進することができた。

##### 4 学校支援人材情報提供システム

各学校で活用実績のある地域人材や専門的な人材の情報をSSCで集約・整理して、各学校に提供している。

このシステムを運用することで、「総合的な学習の時間」やクラブ活動及び各教科の中で必要な人材を活用することにより、教育効果をより一層高めることができた。

##### 5 視聴覚機器リサイクルシステム（新規開発）

市教委の募集事業「特色ある学校づくり推進事業」の取組として、各学校で不具合が生じている視聴覚機器類（CDラジカセ、ビデオデッキ等）について、SSCでメンテナンスにあたっている。

今年度は、市内小中学校の不具合機器63台中31台を修理して、SSC備品として保管することで、必要に応じて各学校に提供するなど、予算執行の効率化と地球にやさしいリサイクルシステムを構築することができた。

#### 6 学校集金未納対応システム（新規開発）

給食費等の校納金の未収について、請求、督促等のマニュアルを作成するとともに、裁判訴訟手続きをサポートするシステムを構築している。

このシステムを運用することで、市内小中学校の未収金対応の標準化を図るとともに、裁判訴訟手続きに係る各学校の事務負担を軽減することができた。

#### 7 市予算関係事務処理システム（新規開発）

事業型予算に対応した予算執行システムや次年度予算要求システムを開発するとともに、就学援助費請求を効率化するためのシステムを開発した。

このシステムを運用することで、事業型予算の円滑な推進を図るとともに、就学援助費請求に係る事務負担を軽減することができた。

#### 8 給与関係事務処理マニュアル（新規開発）

推進委員会で諸手当認定（扶養、通勤、住居、単身赴任）や産休から育児休業までの様々な手続きについて、フローチャートでわかりやすく作成した。

このシステムを運用することで、県費執行の適正を期するとともに、事務処理の効率化を図ることができた。

#### 9 出勤簿等各種帳票提供システム（新規開発）

市内小中学校で使用する出勤簿・休暇処理簿（職名氏名入・インデックス付）をSSC事務局で作成・出力するとともに、児童生徒指導要録についても、各学校の必要枚数を配付した。

このシステムを運用することで、各学校の事務負担を軽減するとともに、約13万円の経費節減を図ることができた。

### <市内全小学校で運用しているシステム>

#### ○ SSC文庫学校間回覧システム

学級単位で1セット（約30冊）にした児童図書を小学校間で毎月回覧するシステムで、今年度は、市内全小学校11校で運用している。

このシステムを運用することで、読書機会の充実と均等化及び予算執行の効率化を図ることができた。

#### ○ 作品募集情報提供システム

夏季休業中の作品募集情報を一覧表にして各学校へ提供するシステムで、各学校は地域イントラネット上で、最新の作品募集一覧を閲覧・出力することができる。

このシステムを運用することで、各小学校における教員の事務負担軽減を図ることができた。

### <小林小、三松小、東方小、小林中、細野中、東方中で運用しているシステム>

#### ○ 児童生徒情報管理システム

MJKソフト（宮事研開発）を活用して、各種児童生徒名簿、指導要録、全課程修了者名簿、住所タックシール等が出力できる。

このシステムを運用することで、個人情報の適正管理を図るとともに、学級担任等の学級事務を年間一人当約10時間削減することができた。

### <小林小、三松小、須木小、鳥田町小、須木中、小林中で運用しているシステム>

#### ○ 学校集金総合管理システム

給食費、教材費、校外活動費、PTA会費等の学校集金を事務室で総合的に管理している。また、小林小と小林中では、ソフト会社と共同で開発したシステムを活用して、事務処理の効率化を図っている。

このシステムを運用することで、学校集金の適正管理を図るとともに、学級担任等の会計事務を年間一人当約20時間削減することができた。また、保護者にとっても子どもにお金を持たせる心

配がなくなるとともに、年間を見通した計画的な支出ができるようになった。

#### <永久津中学校で運用しているシステム>

##### ○ 事務職員未配置校サポートシステム（新規開発）

1週間に2日（半日）程度、SSC事務局員を永久津中に派遣して、給与・諸手当・旅費・市予算関係の事務をサポートした。

このシステムを運用することで、事務職員未配置校の事務負担を軽減するとともに、学校事務全般を適正に管理することができた。

以上、昨年度に引き続き、地域イントラネットなどを活用した学校間ネットワークシステムや校務処理のサポートシステムを開発・運用することにより、学校予算の有効活用を図り、教育効果を高めるとともに、教員の事務負担軽減を図るなど、子どもたちの豊かな学びをサポートする環境が整備された。

## 2 課題

市内の各学校においては、これまでに開発したシステムや今後開発するシステムを学校の規模や実態に応じて円滑に導入するために、各システムについて、教職員の共通理解を図る場を設定することが必要である。

また、小林市においては、これらのシステムを維持管理していくための体制づくりや予算措置、あるいは各システムをより一層効果的に運用していくためのハード面（校内LAN等）の整備が必要である。

さらに、全県的には、各共同実施組織で開発・運用しているシステムを全県下で共有・管理・普及していくための市町村間のネットワークを構築する取組が必要である。

なお、次年度に向けては、文書情報共有システム、教材教具情報共有システム、校務情報共有システムなどの地域イントラを活用した各システムについて、ICT関連事業所との連携を進めるなどして、システムの開発やメンテナンス体制の整備及び他市町村への普及を促進していくことが必要である。

(教育委員会の意見等)